

見て、聞いて、体験しよう！

市民活動センターのイベント・講座案内

週末プチイベント

市民活動センターでは、さまざまな市民活動団体の共催により週末にイベントを開催します。ぜひ、みなさんお気軽にご参加ください。

日時	場所	内容	担当
9月25日(土) 午前10時30分～正午	安桜ふれあいプラザ	「プチうつ」を克服する方法	友気式気功整体院
10月2日(土) 午前10時30分～正午	安桜ふれあいプラザ	ITなんでもサロン	市民活動センター

シニアのためのNPO講座 はじめの一步

「第2の人生をNPO法人や市民活動で地域のために活動してみたい。」こんな言葉に少しでも興味を持っている方、まずは講座を聴いて、第一歩を踏み出すきっかけとしてください。

- ◆日時 9月29日(水) 午後7時～9時
- ◆場所 安桜ふれあいプラザ2階・会議室
- ◆定員 30人(申し込み順)
- ◆参加費 無料
- ◆講師 NPO法人御用利きと出前授業理事長 光武育雄さん

※お年寄りのお助け事業を行っているNPO法人です。NHK総合テレビ「ご近所の底力」で特集されるなど今、たいへん注目されています。

申込先 市民活動センター ☎24-7772 ホームページ <http://www.seki-siminkatsudo.com/>

広瀬惟然300百回忌特別連載②

「惟然の俳句」

惟然が出家を決意して名古屋の養子先から関へ戻ったのは、30代後半のことであった。関の俳諧の連衆から温かく迎えられた惟然は、貞享5年(1608年)に、岐阜を訪れていた芭蕉を訪問するが、これも彼らに誘われてのことであった。この時、芭蕉と惟然の2人だけの付け合いがあり、これを機に蕉門入りする(惟然41歳)。

茄子絵

見せばやな茄子をちぎる軒の畑 惟然
その葉をかさねおらむ夕顔 翁(芭蕉)
是は、惟然みにありし時の事なるべし。
【笈日記】

蕉門入り後も僧として俳人として清貧を貫き、芭蕉没後は乞食行脚に明け暮れる。以下、惟然笈句抄。

ろうそくのうすきにおいや窓の雪
梅咲くや赤土壁の小雪隠(※1)
張り残す窓に鳴き入る電馬(※2)かな
世の中をはいりかねてや蛇の穴
粟の穂をこぼしてこころ鳴く鶉



冬籠人にも言うことなけれ
茶を啜る桶屋の弟子の寒さかな
瘦顔のうつりて寒し村の橋
負けたなら其ままた勝ちぞやれ蛙
煤掃きや折敷(※3)一枚ふみくだく
松島や月あれ星も鳥も飛ぶ

【関弁俳句3句】

この雪に何がなとかく座禅かよ
梅の花赤いは赤いは赤いわな
達者なか達者若葉の月と月

【軽妙・口語調俳句】

きりぎりすさあとらまえたはあとんだ
水さつと鳥はふわふわふうふわ
しぐれけりはしり入り晴にけり
水鳥やむこうの岸へつういつうい
ちらほらと雪の雀のあんれあれ
うれしやなけさはねぐさが生えて出た
涼しいか草木諸鳥諸虫ども

同門の去来(※4)は、「俳諧問答」に「先師かれが性素にして、ふかく風雅に心ざし、能く貧賤にたへたる事をあはれみ、俳諧に導きたまふこと切也」と芭蕉が惟然の清貧をあわれんだ事を書いている。

(惟然研究家・俳人 沢木美子)

- ※1 便所のこと。
- ※2 カマドウマ。昆虫。
- ※3 食器、杯などを載せる木製方形の盆。
- ※4 向井去来。蕉風の代表的句集「猿蓑」を野沢凡兆と編集した。

広瀬惟然300回忌俳句大会実行委員会
事務局 文化課 (☎246455)

◎史話に関しては諸説あります。また、紙面の都合上、表現・表記が簡略化される場合があります。